

Special Essay

だいじなもの

情報教育センター旭町分室

犬塚 裕樹

小学校から続く勉強の長い道のり。その道のりにおいて新しい知識の習得それ自体というよりも、私は効率よい勉強の方法についてばかりを悩み、試行錯誤を続けてきたのではなかったか。なぜ、学校では効率よい勉強方法についての授業がないのか不思議に思った。

そんな中、高校時代に地球物理学者である竹内均が書いた参考書にであった。当時、かれは東京大学教授の職にあったが、専門の著書以外にも大学受験のための物理の参考書をたくさん書いていた。参考書の中に、「効果的な学習法」という節をもうけて説明されていた。さらに、しばらくして「私の知的鍛練法」(徳間書店)などが出版された。竹内均の本にであって私はすぐに熱烈なファンとなった。他のひとが書いた勉強のハウツーものは山ほどあったが、勉強をするうえでの心がまえ、人との付き合いかたなどについて、私がこれほど心うたれたものはなかった。竹内均が人生の目標や幸福についてよりどころとしているのは、福沢諭吉の次のことばであると、かれは本の中で紹介している：

◇(1) 人生において一番楽しくてりっぱなことは、一生涯を貫く仕事があること。
(2) 人生において一番さびしいことは、することがないこと。(3) 人生において一番みじめなこととは、人間としての教養がないこと。(4) 人生において一番醜いことは、他人の生活をうらやむこと。(5) 人生において一番尊いことは、奉仕して恩にきせぬこと。(6) 人生において一番美しいことは、すべてのものに愛情を持つこと。(7) 人生において一番悲しいことは、うそをつくこと。(8) 人生において一番すばらしいことは、感謝の念を忘れぬこと。◇

私が竹内均にますますこころ引かれていくのは、教えてくれた効率よい勉強法が単に役だったということだけではなく、かれの考える人間のいき方や人生の目標への私の共感や、それにできるだけ近づけるよう努力していきたいという憧れではないかと確信するようになった。昨年、竹内均の死去が報道され全身から力がぬけた。数日前、私に医学教育とはなんたるかを1からご教示いただいた本学の吉田一郎教授が58才の現役で急逝された。医学教育の知識のみならず人生の目標や夢について機会あるごとに私に語ってくれた。いま私はすべてを失った気がする。しかし、なんとかしても竹内均と吉田先生の、人生の目標や夢を語ったことばと魂はいつまでも私の中に保ち続けていきたい。

